

「時事問題」の内容を整理し、話し合う

小野寺 美智子

科目名：日本語で学ぶ時事問題

レベル：初級1・2 / 中級3・4・5 / 上級6・**7・8**

履修者数：20名前後

1. 授業のねらい

この科目は、新聞記事の講読やTV番組の視聴を通して、今、話題になっている国際的・社会的な事象等の時事問題についての知識を得るとともに、そこで使われている語彙・表現の理解を深めることを目的としている。さらに、その時事問題について口頭で説明ができ、自分の意見が述べられるようになることを目指している。

授業で扱った時事問題について、教室外においても関心をもち、自ら深く考えるきっかけとなることを期待している。

2. 授業の概要

2-1. 授業の進め方

授業は、活動内容によって大きく3つに分け実施している。まず(1)新聞記事等の講読である。講読を始める前に漢字の読み方の確認を行う。教師が作成した漢字リストに各自読み方を書き込んだ後、読み方リストと照合する。翌週に漢字読み方クイズを受け、さらに定着を図る。漢字の読み方を確認した後、教師が用意したワークシートに沿って「読み」の活動を進める。ワークシートの内容は、テーマや文章構成等によって異なる。例えば、形式段落で構成されている新聞記事については、段落間の関連性を問う問題や精読に入る前に各段落のはじめの文から全体の構成を把握するためのタスクを設けている。ワークシートは、クラス全体で行う場合もあれば、グループごとにディスカッションし、発表するという形をとることもある。

次に(2)TV番組の視聴を行う。TV番組は講読で扱った時事問題に関する内容のものを選び、視聴することで既に学んだ語彙・表現の定着を図る。TV番組の視聴も教師が用意したワークシートに沿って進められる。新聞記事等の講読とTV番組の視聴は、7:3の割合で講読が中心となる。

学期の後半には、(3)学生が自ら選んだ時事問題について口頭発表あるいはレポートを提出する。いずれも授業で扱った時事問題以外のものからテーマを選び、参考文献2点にあたることを課せられている。口頭発表を選択する学生は、事前にレジメを提出することになっており、各学期6~8名(受講生の約3分の1の人数)が2~3回に分かれて口頭発表を行う。発表後に質疑応答を行うが、それが全体討論に発展することもある。

2-2. 扱った時事問題

時事問題のテーマについては、タイムリーで新聞やニュース番組などで繰り返し取り上げられているものの中から学生が関心を持ち、ディスカッションに発展しそうなものを選ぶようにしている。政治色の強いものは、あえて避けるようにしていたが、学生は、むしろ積極的に南シナ海の問題や核開発の問題を取り上げ、自国の立場を紹介する学生もおり、国の事情や様々な考え方を知る上で有効な活動となっているようだ。例えば、リオオリンピックの前にロシアからの留学生がオリンピックに参加できなかった選手の立場でドーピング問題を紹介していたが、ドーピング問題を異なる視点から考えることができたのではないかと思う。毎学期、学生が選んだ時事問題は、次の学期に扱うテーマを決める際に参考にしている。

表1 2016年度春学期に扱った主な時事問題

時事問題のテーマ	活動内容
世界の貧困と不平等	新聞記事の講読⇒グループワーク（ワークシート）
フィンテック	新聞・雑誌記事の講読、TV番組の視聴
パナマ文書	新聞・雑誌記事の講読、TV番組の視聴⇒グループワーク
G7サミット開幕・閉幕	新聞記事の講読
反グローバル化の流れ	新聞記事の講読⇒グループワーク（ディスカッション）
英国EU離脱	新聞記事の講読⇒グループワーク（ワークシート）
ビッグデータの活用	新聞・雑誌記事の講読、TV番組の視聴
ISによるテロ事件	新聞記事の講読⇒ペアワーク（ワークシート）
雇用問題	新聞記事の講読、TV番組の視聴

表2 2016年度春学期に学生が選んだ時事問題

フロリダ銃乱射事件	新しい可能性を開くポケモンGO	日本の女性の活躍について
米国の黒人射殺事件	核開発はあるべきか	フランスのトラック突入テロ事件
消費税増税再延期	南シナ海仲裁判決に関する見方	欧州国家の反恐怖政策
イタリアの経済問題	南シナ海仲裁判決の検討	ロシアの国家的ドーピング
トルコでクーデター未遂	沖縄問題：地位協定	外国人労働者受け入れ問題

3. 今後の課題

概して、口頭発表やレポートの構成は、分かりやすいものが多いが、口頭発表では、発音の問題などで他の学生が内容を理解しにくいものもある。そのような学生をどのように指導すべきかについて検討する必要があるだろう。

（おのであら みちこ，早稲田大学日本語教育研究センター）